

旅立つ諸君に 贈る言葉



関西大学学長 河田 悌一

平成20年戊子(はし、つちのえ・ね)の年、西暦2008年3月、関西大学を卒業されるみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんは、いま新たな旅立ちを前に大きな期待や希望、そして少しばかりの不安を胸に、今日のこの晴れの日を迎えられたことでしょう。

この4年間、みなさんは入学時の初心を忘れることなく、関西大学の学生として、さまざまな夢や目標にむかって、数多くのことを経験し、学んでこられました。

夢や目標にむかって努力するなかで、希望あふれる未来に胸を躍らせながら無心で頑張ってきた時期があれば、理想と現実のはざまに戸惑い、しばし辛い思いをして落ち込んだ時期もあったことだろう、と推察いたします。そのような不安や迷いを乗り越え大きく成長し、関西大学を卒業していかれるみなさん

を、私は学長として頼もしくまた誇らしく思っています。

おそらくみなさんの多くは充実感、達成感、満足感をいだくとともに、関西大学で学んでよかったという感慨を胸に、友人、後輩、教職員に別れを告げ、この学園を旅立っていかれることでしょう。

今後の長い人生の折々に、みなさんの体験の一つひとつが、忘れ去ることができぬ貴重な若き時代の宝物として、走馬灯のように想い出されるに違いありません。

みなさんが関西大学を卒業される21世紀初頭のいま、グローバル化という怪物が洋の東西を問わず横行しています。そのグローバル化には、共通の考えがみられます。すなわち、①市場原理を優先し、②科学技術と経済成長と競争社会とを重視する、というものであります。

文明的にみれば、それは携帯電話、ワープロ、パソコン、インターネットの流行に象徴されるものです。たとえば1997年、中国では、インターネットの利用者は62万人。それが昨年は1億4,400万人に達し、この

10年間でなんと約230倍に増加しました。

こうした状況を考えてとき、みなさんは卒業したからといって、本を捨てて勉強をやめるというわけにはいきません。グローバル化がますます進展するなかで、つねに真剣に学ぶ意欲をもちつづけ、自分自身を知的にも、道德的にも、成長させていく必要があります。

かならず週に一冊は書物を読む、といった学ぶ努力を今後もつづけて欲しいのです。

ある文学者は、次のようにのべています。——どれだけ面白く本を読み、どれだけ美しい絵を見て、どれだけ素晴らしい人びとと出会ったか。これが、私たち人間にとっての最後の財産になるのです。

この言葉を、卒業生のみなさんに贈る言葉としたい、と思います。と同時に、関西大学の卒業生であるということに誇りと自信をもって、日本のみならず世界各地で、少しでも世のため人のためになる、有意義で豊かな人生を歩んでくださることを希望しています。

HEADLINE

- 8 面 特集 写真で綴る4年間
- 7 面 特集 理工系3学部・大学院の新しい歩み
- 6 面 特集 政策創造学部新設1年目を振り返る
- 4・5 面 特集 卒業するみなさんへ
- 2 面 特集 一字に託す送辞と答辞

千里歌

本学学歌は「自然の秀麗」「人の親和」という歌詞で始まる。それは、世の中自体が、自然あり、人との交わり、すなわち社会なしでもあり得ないことを表している。また、学歌一番の歌詞は「長き歴史」で終わる。それは、モノと社会とを軸とする世界が時間とともに変化し、成長していくことを表している。▼この一年間は、卒業式に発行される『関西大学通信』において、送辞と答辞が一字に託され表現されてきた。昨年号では、自然あるいはモノに関して「核」「種」があげられ、人との交わりに関して、「任」「信」「結」「法」「奏」があげられた。また時間に関して、「萌」「開」「躍」「過」「卒」があげられた▼なお、この世界を生きる自己に関して、「志」「己」「麗」「護」「坐」が、自己と社会との関係について「恕」「痛」「樂」があげられた▼世の中に対する洞察を深め、自己のエネルギーを高めることが大事である。今年は、卒業式に当たっての気持ちなどの一字に託されているのであろうか。(廣田 俊郎)

第4学舎3号館と第1学舎1号館が竣工



第4学舎3号館



第1学舎1号館

一学舎をはじめ、大学および工事関係者のほか来賓が出席し、完成を祝った。

また、第一学舎一号館は、地上六階建、延床面積約一万三千二百九十九平方メートル、千早ホールをはじめと

る、豊臣期大坂御所の展示標を設置している。

三月六日に理工学系学部における教育活動、および正課・正課外体育活動、更新なる充実を目的とした第四学舎三号館、十七日に法学部文学部および政策創造学部が教室、実験・実習室等として使用する第一学舎一号館が、それぞれ千里山キャンパスに竣工した。

また、第一学舎一号館は、地上六階建、延床面積約一万三千二百九十九平方メートル、千早ホールをはじめと

る、豊臣期大坂御所の展示標を設置している。

高松塚古墳壁画再現展示室が竣工



三月十一日、美術陶板が、陶板画による精密な複製を再現するのは日本で初めてのこととなる。

飛躍

高橋大輔さん(文四)が、二月二十日から二十一日まで、岸和田市総合体育館で行われた二〇〇八年度第八回全日本学生室内アテチアリー選手権大会において、世界選

「高橋大輔君を応援する会」に参加しよう!

スウェーデンのイェテボリで開催される世界フィギュア選手権競技大会男子シングルに出場するアイススケート部の高橋大輔さん(文四)の応援を当日大画面で観戦しながら、多くの学生の参加を期待する。

商学部寄附講座を開講

商学部では次の通り、二つの寄附講座を開講する。①「フアランス特殊講義(SMBC寄附講座) 提供・三井住友銀行グループ

「高橋大輔君を応援する会」に参加しよう!

スウェーデンのイェテボリで開催される世界フィギュア選手権競技大会男子シングルに出場するアイススケート部の高橋大輔さん(文四)の応援を当日大画面で観戦しながら、多くの学生の参加を期待する。

トピックス

関西大学日本・EU研究センターでJapan Week 本学は、三月十日から十三日の四日間、創立百周年記念事業の一環として、特別聴講生へ提供する授業科目で、かつ、学生が所属する本学大学院において履修を認められたものに限る。

笑いを科学する 横隔膜の振動を測定

「一回大笑い講の学術パト」として、二月十三日に公開シンポジウム「笑いを科学する」(ソシオン)を科学する(ソシオン)研究プロジェクトユニットが、それぞれ千里山キャンパスに竣工した。

また、第一学舎一号館は、地上六階建、延床面積約一万三千二百九十九平方メートル、千早ホールをはじめと

る、豊臣期大坂御所の展示標を設置している。

客員教授による講演会を開催

昨年十一月以降各学部に客員教授として来校された方々が、三月五日に日本学術振興会理事、元文部科学事務次官の小野元文客員教授による講演会「日本学術改革の行方」を開催した。

新刊の扉

○文学部教授 山住勝広他 共編 「フットワーキング」 合人人間活動の創造へ(平成一〇年二月八日・新曜社・定価三千四百六十五円八税込) ○文学部教授 萩野健二他 共著 「家族への手紙 謝水心の文庫」(平成一〇年三月五日・関西大学出版部・定価一千八百三十五円八税込)

一字に託す

送辞と答辞

法学部教授 永田眞三郎



みなぎる力で前に進む。いまは、この気迫が第一であろう。大胆に決断し行動することで多くのことを学び、大きく成長する。しかし、走ってからしばし行む。自分の理性、知性、倫理観と対面する。躊躇すること、ためらうことが、人を人らしくする。それが、自分の居場所を納まりのいいものにし、そこに、ひとつ上質になった自分をみる。全力で邁進するエネルギー、そして自分の蓄積としばし対峙する時間。「ためらいの美学」、敢えてあなたに、「躊躇」を贈りたい。

文学部教授 佐藤 裕子



人生は旅に例えらる。誰もがこの世に生まれ出てきて、二度と繰り返すことのない時を過ごし、去っていく。行き着く先は知るすべもないが、私たちは路の途中を歩いている。従って大切なのは結果よりもプロセスである。何か仕事を成し遂げようとするとき、何かを理解しようとするとき、目的に向かって近づいていこうとする過程こそ、納得のいくものであってほしい。路のその先に、幸福が待っていることを祈ってやまない。

経済学部准教授 野坂 博南



みなさんは二十数年のさまざまな経験を経て社会に旅立っていく。ただし、人生のまだ入り口に立ったばかりであり、多くの人はこれから四十年程度は働くことになる。その意味で、美りある人生となるかどうかは働き方次第と言っても過言ではない。先の長いキャリアのスタートに立ったみなさんには、ぜひ長期的な視野でこれからの自分の生き方、働き方を考えてほしい。関西大学での経験や友人がそのための羅針盤の一つとなっているはずである。

商学部教授 杉本 貴志



「官」立の機関と違い、「私」立の関西大学には自由が溢れている。君も4年間それを存分に満喫したことと思う。しかし世の中は「官」と「私」だけでできているわけではない。「公」のなかで生きていく以上、法で禁じられていなくても、地べたに座り込んだり電車のなかで化粧したりすることは許されないのである。大学とは学問や学生生活を通して「公」を学ぶ場。卒業証書はその修了証明。「公」人として、我々が誇れるOB、OGになってほしい。

社会学部准教授 北村 由美



卒業と人生の門出を壽ぎ、「師」の一字を贈りたい。これまでみなさんは多くの師と出会い、さまざまなことを学んできた。しかし社会に出て、特定の人ではなく万物が師になるだろう。仕事や旅先で出会った人、山や川、時には道端の石さえも、いろいろな形でみなさんに多くのことを教えてくれる。学校で学ぶ機会はないかもしれないが、違った形で多くの師と出会い、成長してほしい。「人生いたるところに師あり」どうかお幸せに！

総合情報学部教授 久保田真弓



卒業したら学校という枠も教師も教科書もなくなる。社会に出て頼れるのは、自分自身と五感だ。わからないことだらけでも一生懸命に人の話を聴けばよい。真摯に聴く姿勢は、きっと相手の心を開くだろう。それでもわからなければ聞けばよい。聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥。自分以外のすべての人を味方につけ、情報を引き出すのだ。そのうち知識や知恵が蓄積され、聴衆が必要になるほど話したくなるだろう。そうしたら一人前だ。

システム理工学部教授 村中 徳明



脳の重要な情報処理には、知・情・意の3つがある。人間とコンピュータを比較した場合、知(識)では確かにコンピュータの方が膨大な記憶能力を持ち、人間を超越している。また、(感)情ではかなり人間を理解し、接近しているが、意(志)を持ったコンピュータはまだ現れる気配はない。この度、大学を卒業して新しい世界に羽ばたこうとしている諸君には、この人間に与えられた最大なる能力「意(志)」を簡単に捨てずに、大事に持ち続けてほしいと願う。

外国語教育研究機構教授 西川 和男



「勇気」の「勇」。去年の世相を表す文字として「偽」が選ばれ、今年も残念ながらその傾向が続いているようである。日本の社会は「和を以て貴しと為す」を基本の一つとし、また最近では「KY」なる言葉も流行っている。各組織内でそれがマイナスに作用した結果が、この「偽」につながるものであると思われる。理屈・道理に合わないと思える時は、異を唱える「勇」気をもって社会を変えていってほしい。

大学院法務研究科教授 藤田 久一



無数の漢字のなかから卒業生に託す一字を選ぶのはむずかしい。漢字は人と同じく各々個性や特徴をもつからである。あえて選ぶならば字の中でもっとも単純かつ基本的な「一」をあげたい。一は「もっともすぐれたもの」であるとともに、自然数の最初の数でもあり、ものごとの「はじめ」を意味している。一人前の社会人としてはじめて仕事に取り組む心構えを一に込めたい。「コロンブスの卵」の喩えである。

大学院会計研究科教授 清水 涼子



さっと風の立つさま。一筋の涼風が吹けば草木がなびいて道が現れる。信念に基づく言葉が難局を切り拓き、解決の手掛かりを与える。鮮やかな論理展開と判断力、高潔性と正義感。飄々として媚びず驕らず、精進を重ねつつ歩み続ける。職業会計人の理想の姿をこの一字に重ね合わせた。修了おめでとう。プロフェッショナルとしての自負と社会貢献の志を忘れず、自らの信じる道を颯爽と歩むことを期待したい。

法学部卒業生 湯本 麻依



運の強い人間はいいなと思ってきた。運は、軍を進めると書く。進軍の果てに近づくものは勝利。私は人生で初めて達成感を得たという経験をした。運が悪くても大丈夫なくらいやり込めばいい。そんな克己心で歩を進めた日々。気が付くと、結果が残っていた。運とは不思議なもので、あてにしない時ほど味方してくれる。こうしてつかんだ生き方が運命だったと思える今がある。関西で過ごした22年間の歳月は私の芯。この先の大舞台でも、芯を持って軍を進め続け、人生に大きな軍配をあげたい。

文学部卒業生 藤本 佳世



大学4年間は私にとって人生の「土台」の一つ。インターンシップや留学などたくさん経験し、これから卒業する私にとって、それらの経験が社会人となるうえでの土台となり、また社会に出てからも絶えず学び成長し続けるための土台となって行くことであろう。この土台をさらに積み重ね、将来の人生設計の柱にして行きたい。学生時代には辛い経験もあり、これからの同様の経験を何度もすることだろう。しかし、努力の証となる土台をこれからも築いて行きたいと思う。

経済学部卒業生 吉房 昌之



関大の門に惚れ、気づけば4年という月日が過ぎたかと思うと本当に早かった。大学に入学して惚れたダンス、なんとか惚れようと努力した経済の勉強、惚れることのできる企業を探し回った就職活動、そして惚れ込んだアルバイト生活。この大学生活では、さまざまなことを学んだ。多くの友人・先輩・後輩の支えがあって今の自分がある。いろんな人に感謝し、社会に出ていろんなものに惚れ込んでいこうと思う。

商学部卒業生 西口 晃生



大学生活は本当に自由。そんな中で、数え切れないほどの道の中から、みんな自分の進む道を自分自身で考え一つだけ決めて進む。私は関大スポーツで「カンスポ」を作るという道を選んだ。しんどいこと、辛いことばかりだったが、ここで積んだ全ての経験はこれからの自分の糧になっていこう。大学ではもっと楽で、楽しい道もあったと思う。しかし私は関大を選び、ここで4年間過ごし、自分で決めてきた道には間違いはなかったと胸を張って言える。

社会学部卒業生 内本 和希



「送ること」すべてに意味があるとすれば、「受けること」すべてにも意味がある。たとえそれが長かろうが、短かろうが、そこに込められた気持ちは必ずや君に届くはずなのだ。文字という人類が生み出した道具にのせて飛ばす人の思いは、時に人を感動させ、喜ばせ、悲しませ、傷つける。贈り物にも、武器にもなる人の文字(想い)は知らず知らずのうちに、放たれる。その鋭さ矢の如し。その速さ光の如し。その温かさ春の如し。

総合情報学部卒業生 越智 翔子



私にとって大学はさまざまな人との出会いに繋がられる場であった。多くの人と出会い関わることで、多くの考え方を教わった。その中で、自分自身でよく考えることや考え方の柔軟性の大切さを教わった。これからは多くの人との出会いを大切に、自分の成長へと繋げていきたい。

工学部卒業生 清下 大介



この大学生活、アルバイトや就職活動、研究室などでさまざまな出会いや出来事があり、その度に考えさせられる事があった。年上の人との接し方、就職活動を通じての自己分析や自分の将来像、研究室でのエンジニアとして必要な知識や考え方。これから社会人になるにあたって、今まで以上に多くの人と出会い、考え方や価値観を知り、多くの事で悩み考えさせられるだろうが、培った経験を生かして頑張っていきたい。自分のさらなる成長のために。

大学院外国語教育学研究科修士 今西 伸明



大学院生活を白か黒で例えよ、と言う質問に私なら「灰色」と答える。ならば、修了しても凱歌が響かるとは言えない。この先の人生、嫌でも白黒をはっきりと付けさせられる時が何度も来ることは分かっている。大きな事に挑戦し、成功させるには、あらゆる事に気を配る緻密さと、失敗を恐れぬ大胆さが要求される。冷静に物事を判断できるが、心の中には熱い何かを持っている、そんな人になり、この大学院に凱旋したいと思っている。

大学院工学研究科修士 中村 広美



大学院での2年の研究活動では、なかなか思うように進まないこともあり、不安が押し寄せたこともあったが、私はいつでも「きっとできるはず」と自分を信じる気持ちでそれを振り切ってきた。技術者として社会に出て行く上で知識や技術は欠かせない。しかし、立ち向かうべき課題に対してまず前向きに取り組みなければ何も始まらないのではないだろうか。これからも常に前向きでいるために自分を信じる気持ちを大切にしたい。そして、信じられる自分でいられるよう、自分自身をしっかりと見つめ、成長し続けたい。

大学院法務研究科修士 小林 俊之



法科大学院での2年間の生活は辛かった反面、非常に新鮮なものであった。少人数のクラスで、先生との対話を通じて、ただ本を読んでいたのでは身につけることのできないような知識、さまざまな考え方に触れることができた。そしてあらためて法の難しさ、その重要性を実感した。法律に関わる過程では、問題に直面するたびに新たな発見、学ぶべきことがあるように思う。それらを吸収し、成長していけるよう、卒業後も努力を続けていきたい。

大学院会計研究科修士 西塾 慎一



新たに進むべき道を決めた2年半前。そこから本当にたくさんの出会いがあった。尊敬できる先生、切磋琢磨しながらも夢を語り合える友人たち、頼りになる後輩、そしてなによりもここで「会計」と出会い、たくさんの方を学んだ。悩み苦しむことは多かったけれど、2年半前は何も知らなかった僕がここまで成長することができたのは、出会い、そして支えてくれたすべての人のおかげだ。本当にありがとう。

関大通信 第351号

平成20年(2008年)3月19日
大阪府吹田市山手町3-3-35
http://www.kansai-u.ac.jp/
次号は4月1日発行の予定です



2004 (平成16年度)

- 4月 ▶ 法科大学院を設置
▶ 中之島センターがオープン
- 8月 ▶ 水上競技部山田沙知子さん、サッカー部(女子)下小鶴綾さんがアテネオリンピック出場
- 9月 ▶ 第2学舎4号館が竣工
- 10月 ▶ 理事長に森本靖一郎氏が就任
▶ スーパーSINETの運用が開始
▶ 経済学部創設100周年記念国際シンポジウム・記念式典・講演会を開催
- 11月 ▶ 高槻キャンパスに馬術部の馬場・厩舎が完成
- 1月 ▶ アイススケート部高橋大輔さんがユニバーシアード冬季大会フィギュアスケートで優勝



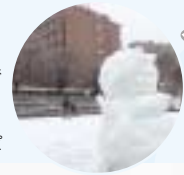
2005 (平成17年度)

- 4月 ▶ 社会連携推進本部を設置
▶ ボランティアセンターがオープン
- 7月 ▶ サッカー部が総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントで優勝
- 9月 ▶ 工学部第6実験棟が竣工
- 10月 ▶ 陸上競技部平野司さんが日本トリアスロン選手権で優勝
- 11月 ▶ キャリアセンターに卒業生就業支援室を設置
▶ 射撃部松村久基さんが世界学生選手権で優勝
- 12月 ▶ 野球部岩田稔さんが阪神タイガースに入団決定
▶ 会計専門職大学院の設置が認可
- 1月 ▶ 女子寮「関西大学ドミトリ一月が丘」が竣工
▶ アイススケート部織田信成さんが四大陸選手権で優勝
- 2月 ▶ 総合学生会館 メディアパーク 凜風館が竣工
▶ アイススケート部高橋大輔さんがトリノオリンピックで8位入賞



2004~2007

4年間写真で綴る



2006 (平成18年度)

- 4月 ▶ 会計専門職大学院を設置
- 5月 ▶ 商学部創設100周年記念式典を挙げる
- 6月 ▶ 関関戦で総合優勝
▶ サッカー部が関西選手権で優勝
- 7月 ▶ 関西大学アイスアリーナが竣工
- 9月 ▶ カレッジリンク型シニア住宅創設記念シンポジウムを開催
▶ 教務センターが開設
▶ 水上競技部浦部紀衣さんが日本学生選手権水泳競技大会で優勝
- 10月 ▶ 簡文館に年史資料展示室が完成
▶ 第39代学長に河田梯一文学部教授が再任
- 11月 ▶ 悠久の庭が完成
▶ 創立120周年記念式典を挙げる
▶ 法学部創立120周年記念シンポジウム・記念コロシアムを開催
- 12月 ▶ アイススケート部高橋大輔さん・織田信成さんがNHK杯、グランプリファイナル、ユニバーシアード冬季競技大会で大活躍
- 3月 ▶ 東京センターが移転
▶ 第1学舎5号館が竣工
▶ 簡文館が登録有形文化財に指定



2007 (平成19年度)

- 4月 ▶ 政策創造学部を設置
▶ 工学部をシステム理工、環境都市工、化学生命工に再編
- 6月 ▶ 大阪大学と学術交流協定を締結
▶ 平成19年度グローバルCOEプログラムに「東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成」が採択
- 7月 ▶ 丹波市と連携協力に関する協定を締結
▶ 千里山北広場が完成
- 9月 ▶ 拳法部中川絵美さんが全日本拳法総合選手権大会で優勝
- 10月 ▶ 社会学部創立40周年記念フェスティバルを挙げる
- 11月 ▶ 水上競技部矢野友理江さんが競泳水球ワールドカップ第2戦で2冠
▶ 第57回 全日本学生賞典障害飛越競技大会において、体育会馬術部が団体優勝し、個人でも中谷彩夏さんが優勝
▶ 重量挙げ部武市樹さんが、ジュニア日本新記録を樹立
▶ 佐賀県武雄市・天神橋筋商店連合会と連携協定を締結
- 12月 ▶ アイススケート部高橋大輔さんがNHK杯、グランプリファイナル、全日本選手権でメダルを獲得
▶ 速記部が全日本学生速記競技大会で40連覇を達成
▶ 拳法部が第52回全日本学生選手権大会で団体優勝
- 3月 ▶ 第4学舎3号館、第1学舎1号館および高松塚古墳壁画再現展示室が竣工



また春がやってきた。春は別れと出会いの季節である。今号は卒業特集というところで、門出を迎える卒業生のみならず、何年か後に振り返りたくなるような記事がいくつか掲載されているのではないかとと思う。三年目を迎えた送答辞特集はもちろん、成績優秀者の氏名なども、懐かしく思い出される日が来るかもしれない。こんなことを書いていると五年前に博士課程を修了して本学の卒業生となった日のことを思い出します。そのときは、四年後に、今度は見送る側としてここに帰ってこようとは予想していませんでした。これからは、送る側として新しい春を重ねていきたいと思う。旅立つ人たちにも、残る者が身にも、新たな出会いに幸多からんことを祈りつつ。

(北波 道子)



▶ 編集後記 ◀